

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100486		
法人名	医療法人白鷗会		
事業所名	白鷗ホーム		
所在地	〒038-0058 青森県青森市大字羽白字富田38番地1		
自己評価作成日	令和3年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開設者が医師である為、医療と福祉が連携しており、協力医療機関と24時間連携がとれる体制にあり健康面で安心して生活して頂けます。また、利用者様ご家族様が望まれるのであれば看取り体制を整えておりホームで看取り介護が可能です。当ホームは日常的に地域の方と触れ合う事が出来る場所にありホームからの声掛けにより行事に参加して頂き町内会の催し物に参加する等、地域の交流も深めています。今後も地域にとけ込んだグループホームにしていきたいと思ひます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者への日々のケアに対する振り返りが定期的に行われ、サービスの質の向上に力を入れている。また、24時間協力医療機関と連携がとれる体制が構築され看取り介護も行われている。ケアを実践する職員の意見を反映しており働きやすい職場環境づくりにも力を入れている。コロナ禍の為、例年通りの外出支援等は行えていない中、季節を感じられる手づくりの装飾をはじめ利用者の意見を少しでも生活の中に取り入れ、本人本位の生活が送れるよう努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流、ふれあいを大切にし事業所の理念である「自由」「明朗」「調和」を全職員で共有している。	地域との交流やふれあいを重視した事業所理念が、共有スペースや事務所等目につく場所に掲示されており、いつでも確認できるようにし共有が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしたり近隣の方とお話したり、近くのお店に行き来する等、地域とのかかわりを大切にし交流を深めている。	例年であれば、地域のお祭りに出かけたりしているが、コロナの影響により交流は途絶えている。地域住民の方との良好な関係が構築されており、コロナが落ち着いたら交流を再開する予定であり、地域とのかかわりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いたり事業所の行事に地域の方に参加して頂く等、認知症を理解して頂けるように交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、年間行事の報告を行うと共に地域の方より地域の情報や助言を頂きサービスの質、向上に努めている。	コロナの影響により書面で実施されており、会議の内容は事業所内に掲示し、出席者にも報告されている。出席者には町内会長や地域住民の方にも入っていただいております。状況報告などや助言を頂きサービスの質の向上に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し情報提供をして頂いている。入居等の相談に関し、その都度、市町村とやり取りを行い連携を図っている。	運営推進会議等を通じ、日頃から質問しやすい関係が作られており、様々な助言を頂くなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画に取り入れ、ミーティングにて身体拘束の理解と意識付けを行い全職員が周知に努めている。状況に応じて一緒に散歩に出掛ける等、拘束をしないケアを行っている。	身体拘束委員会が設置され、3ヶ月に1回開催されている。委員会内で身体拘束についての事例等研修内容が検討され、月1回のミーティング内で開催され、身体拘束の理解や意識づけが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等において虐待について研修を行っている。管理者や職員は禁句用語掲示し、ケアの方法や言葉掛けに配慮し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び成年後見人制度に関し職員間で共有できるように資料を事業所内に掲示し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用者や家族に重要事項説明書・運営規定について十分に説明し意見や疑問等聞き納得して頂き同意を得た上でご署名・捺印を頂いている。退居時についても契約時に説明し料金改定等についても事前に書面で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当窓口、ご意見箱を設置し来苑時には積極的にお声を掛け、コミュニケーションをとり話しやすい環境作りに努め、意見や要望に関しては職員間で共有している。	玄関には意見箱を設置されているが、面会時に要望等を受けることが多い。利用者家族には定期的に手紙と写真を郵送して様子を報告している。また、要望があった時は朝の申し送りや月1回のミーティング時に話し合いをし解決に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行っているミーティング時や日常的に意見交換を行っている。2ヶ月に1回のチェックリストにて業務についての意見や要望を記入してもらい検討し、日々の業務に反映させている。	業務内容や環境に職員意見を反映させるため「チェックリスト」を用いている。チェックリストから提案された浴室やトイレへの手すりの追加や職員の制服の追加購入等が実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時、職員の健康診断を実施し今後も年1回の健康診断を行い健康を保つ体制を整えている。就業規則があり、働きやすい職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修に参加できるように努めている。新規採用については、2週間の教育期間を設け実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている同業者との連絡会や研修に参加し、情報交換を行いネットワーク作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、利用者の思い、希望生活の様子をご家族、担当者から情報提供をもらい事前に病院等へ訪問し馴染みの関係を作り、少しでも入居前の生活に近付け安心して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を親身になって傾聴しご家族の要望、ニーズに沿えるよう、職員間で共有している。信頼して頂けるよう柔軟な態度で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から何が必要か見極め、対応が必要な事は早急に対応している。また、他のサービス機関と連携を図り情報提供の支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす事により、利用者から色々な事を学び、身体状況に応じ家事作業を行う等し、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族に利用者の近況報告や日々の様子を報告し家族の意向を聞き取り、より良いケアが出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人、知人、友人など、いつでも施設内での面会ができれば馴染みの場所に行く等、支援を行っている。	利用者が常連だった食堂に家族と一緒に外出する支援や、入居前に行っていたスーパーなどに外出する支援を行っている。昔からの友人が面会に来たり、家族と一緒に出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で個々の身体状況や精神状態を把握し、席の配置を行いまた、職員が仲介となり利用者が孤立しないよう作業等を通し、利用者同士の関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居された方に関しては、必ず弔問に出向いている。必要に応じて、家族の相談にも対応する事もお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の生活の中で聞かれた希望、要望思いを理解し、またご家族から聞き取りを行い意思疎通が困難な利用者には日々の生活の状況から本人本位のケアができるように努めている。	日常生活の中での会話から意向を把握する様努めており、朝食メニューにパンを取り入れたり、誕生日等の行事食に意見を聞くなどしている。意思疎通が困難な利用者については、家族から面会時に要望等を聞き、できる限り本人本位のケアに沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に利用者や家族からヒヤリングを行いプライバシーに配慮しながら生活歴、生活環境等の経過を聞き、情報収集に努め全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録から利用者の生活リズムを把握し、日々の状態観察に努め全職員が情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人のケアプランを作成するに当たり、利用者1人ひとりに担当を付け本人、家族から意見を聞き、職員間で話し合い記録、共通の認識を持ち利用者のニーズを把握し、現状に合った介護計画を作成している。	計画作成時にはサービス担当者会議を開催し、介護計画の内容について検討し、関わる職員が情報を共有できるように努めている。家族から面会時や通院報告時に出た意見や要望を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、日常の様子等を個人ケースに具体的に記録している。記録は個人ファイルを作りいつでも、個人の状態が継続的に把握出来るようにしている。再アセスメントを作成し職員間で共有し、現状に合った介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに応じて受診援助や買い物、薬の受け取り等を行うなど柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域の方々、地域包括支援センター職員より地域の情報や参加可能な行事等の情報を提供をしてもらい利用者の意向で地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望により、かかりつけ医を選択できる体制をとっている。往診、通院の結果については家族に報告している。必要に応じて直接、家族が医師と相談出来るよう医療との連携に努めている。	契約時にかかりつけ医をどうするか確認し、家族及び利用者の意向に合わせている。通院の報告はその都度、家族へ電話で行い共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、利用者の状況を看護師に報告し体調不良や変化があった時には適切な指示を受けている。また、必要に応じて看護師が来苑した際には、利用者の事を報告し指示を受け、訪問看護ステーションと契約し医療連携を整え、健康チェックを行っている。いつでも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者に出来るだけ面会に行き退院後は、不安なく過ごせるように看護師に様子や注意事項を聞くなどして情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、利用者が家族に終末期について話し取りが可能であることを説明している。利用者の重度化や終末期の対応について医療機関、訪問看護ステーションと連携し看取りの指針を設けている。利用者、家族の意向を的確にし意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	契約時に重度化及び終末期についての説明を行い書面にて同意を得ているが、利用者の状態に合わせてその都度相談を行い、柔軟に対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急対応マニュアルを作成し全職員へ周知している。当法人の看護師より緊急時の対応の指導を受け、職員間で応急手当や初期対応の確認を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時訓練や火災避難時訓練を日中、夜間を想定し年2回行っている。近隣の方にも協力をお願いしている。また、非常食、備品を準備し災害に備えている。	非常食は3日間程度準備されている。また、非常用として投光器や発電機も準備している。年2回開催される防災訓練には見守りとして地域の人に参加してもらっており、協力関係ができています。また、系列事業所からも協力を得られる体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり、優しく丁寧な言葉掛けを大切に、その人のペースに合わせた対応を心掛けている。利用者の居室に入る時は、必ず声掛けしケア時は、羞恥心にも配慮した対応を行っている。	職員一人ひとりが2ヶ月に1回のチェックシートで自身の接遇について振り返りを行い、声かけやケアの内容を見直している。また、新人職員には接遇に関する研修に出てもらい、月1回のミーティング内で伝達研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆どの事は利用者に確認し常に一人ひとりの好みや希望を把握するように努めている。意思疎通が出来ない利用者には、家族からの情報をもとに利用者に寄り添い決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事以外の時間は決まっておらず、利用者の希望や訴えを優先し利用者に合わせた対応を心掛けている。外出の希望があった場合は、出来るだけ対応し、出来ない時は説明し別日を提示し納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季を通し清潔に考慮しながら一人ひとりの好みに合わせた身だしなみができるように支援している。意思表示が困難な利用者には職員が家族とも相談し好みに合わせて選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養士が作成しているが嫌いなメニューがある時は、調理法を変えたりメニューの変更や盛り付けを工夫し、食事が楽しめるように配慮している。また、利用者に食器拭きなどお願いし一緒に行っている。	利用者から要望があればメニューに反映するように努めている。また、季節感を持つていただくために夏季は清涼感のある食器を使ったり、季節の食材を使ったものにアレンジして提供するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスやカロリーを考えた献立を作成している。利用者の嫌いな物や好みに合わせたメニューを一部変更したり利用者の状態に応じて食事提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。一人で出来る利用者には見守りし、出来ない利用者には、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し回数や量等を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。また、一人でトイレに行けない利用者には、時間を決め羞恥心、プライバシーに配慮し、声掛けしトイレ誘導している。	個別の排泄チェック表に日々の状況が記録されている。それを1ヶ月単位で表記される個別のバイタルチェック表に血圧や入浴、服薬状況などと一緒に記録され、トータル的に把握できるよう工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、毎日チェックし一人ひとりの排泄の有無を確認し、便秘時には水分量を増やしたり乳製品等の摂取、マッサージの施行、医療機関に相談するなど個々に合わせ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は、週2回設定している。利用者の希望に添えるよう順番や時間を配慮している。入浴を嫌がられる利用者には声掛けを工夫したり、日を変える等している。	季節に合わせて入浴剤を使ってお風呂を楽しんでもらっている。状況に応じ、シャワー浴や入浴をしてもらい清潔の保持ができるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠、生活リズムを把握。日中は居室やソファ等で利用者は、思い思いに休息をしている。夜間眠れない状態が続いた場合は、日中の生活状況を検討したり、状況により医療機関に相談も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、目的を把握している。投薬チェック表を記入し、薬や与薬の管理は徹底している。薬の変更時は職員間で申し送りを確実にしその都度、手渡ししたり口の中に入れてあげ、確実に服用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、日常での会話やアセスメントから利用者、一人ひとりに合わせ食器拭きや洗濯たみ等の家事作業や畑と一緒に野菜を植えたりアドバイスを頂いたり出来る事を行って頂いている。また、その都度、感謝の言葉をきちんと伝え、生活に役割や楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて近くのスーパー等へ買い物にで掛けている。また、外出時は、利用者の身体状況に配慮し、車椅子用の車を使用し出掛けている。地域の催し物への参加等、家族の希望があれば出かけられるよう支援している。	現在はコロナの影響で外出の機会が減り散歩での外出の機会の確保のみとなっているが、例年春は花見に行き、夏は法人内の夏祭り、秋には紅葉を見に行っている。個別で外出の要望がある際は、家族の協力を得ながら外出できるように努めている。地域でのイベントにも要望があれば参加できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	商品購入の際、支払いの出来る利用者には支払って頂いている。自己管理の出来ない利用者については、ホームの金庫に預かり出納帳を準備し毎日残金を確認し、月1回領収書をご家族に渡して確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば職員が代行で手紙の投函を行ったり、電話をかける事が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に椅子やテーブル、ソファを置き、利用者が好みに合わせて選べるように配置している。日差しによる眩しさにはロールカーテンにて調整を行っている。玄関やホールには季節感がわかるようにカレンダーや装飾品を飾るなど居心地の良い空間作りを心掛けている。	空調設備が整っており、室内は常に快適な状態が保たれている。共有空間であるホール内は、窓が大きく日当たりが良く心地よい暖かみがある。また、季節を感じられる掲示物を職員と利用者が一緒に作成し、飾り付けしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に椅子やテーブル、ソファを置き利用者が思い思いに過ごせるように配慮し、利用者同士が自由に交流しくつろげるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお話し、使い慣れた家具や食器、衣装ケース、ご家族様の写真などを持ってきて頂き居心地がよく過ごせるように支援している。	居室にはベッドとチェストとクローゼットが備え付けられている。個人的に使っていたタンスやテレビ、家族の写真など思い思いのものを持ち込んでいただき、それぞれ入居前と変わらない雰囲気を作れるよう努めている。食器も使い慣れたものを持ち込んでいただいております、居心地よく過ごせるよう取り組みがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、ホール内には手すりを設置している。利用者の状況に応じて安全に配慮し、トイレなどの場所がわかるように場所の名前を表示し間違いや混乱のないように工夫し、出来る事を継続して行けるように支援している。		